



名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO. 897



超我の奉仕

SERVICE Above Self

<本年度クラブ会長方針>

「チャレンジ」

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 草野勝彦 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email office@nagoya-osu.org
 幹事 鬼頭茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

2005～2006年度

R.I. 会長

カール・ヴァルヘルム.

ステンハマー

家族月間

第1041回例会

於 名古屋東急ホテル

2005年12月1日(木)

会員 69名

出席計算数69名中49名出席

出席率 74・24%

前回出席率 95・31%

ロータリーソング

「君が代」

「大須ロータリーソング」

指揮者 松本 哲朗

ピアノ演奏 電板 玲子

ゲスト

青少年交換学生

クリスティナ・マッキントッシュさん

ピクチャー

加藤 光哉さん 瀬戸RC

小山 草仁さん 岡崎城南RC

バナー披露

スリオンRC タイ・バンコク

ニコボックス

お世話になります。

加藤 光哉さん(瀬戸RC)

タイ例会に苦勞さま、柴岡さんありがとうございます。

とございまして。 草野 勝彦

久しぶりに出席しました。小笠原和俊

杉本 英夫

タイ訪問無事終了、委員会の皆様、苦

勞さまでした。新沼 操 鬼頭 茂成

高木 政義 川畑 博敬 吉田 明夫
 タイゴルフ例会優勝させていただきました。
 チェンマイより無事帰りました。
 岡村 隆徳

近藤宏一郎
 タイ例会出席の皆さん、苦勞様でした。
 創業記念月です。
 堀江 英弥

伊藤 清次
 当たり馬券をそのまま。 酒井 修
 「無沙汰です。」 尾上 昇

「無沙汰しております。元気でやっております。」 松本 定道

岡田ゴルフ部会会長、大波賞ありがとうございます。
 前田 隆久

山口さん、お世話になりました。ありがとうございます。
 柴岡 正将

会長挨拶 草野 勝彦
 こんにちは。

久しぶりに東急ホテルの例会に出席しました。



草野会長

11月は、私が中国に出張したりして、お休みをいただきましたので、11月はタイ例会に出席の唯一、当クラブでの例会出席です。タイにお出かけいただいた会員の方、大変苦勞さまでした。

タイの旅行について報告させていただきます。

私達会員のうち12名は、11月19日中部国際空港を出発し、バンコクからチェンマイに到着しました。

そこで、夕食の折、マリー・クリスティンさんにお会いしました。当日川畑さん、堀田さんが二〇〇三年に贈呈しました多目的教室を視察してきました。



多目的教室

20日にワット・ウェイ・サイスクールの図書館の落成式に出かけました。近隣社会奉仕委員長の指揮のもとに行いました。会員14名が参加しました。チェンマイから車で一時間余のところにある小学校でした。小学生が二〇〇人位でしたが、道路の両側に並んで歓迎を受けました。小学生的の踊りで大歓迎を受けました。

図書館は立派に完成して、その中にはパソコンが入れてありました。パソコンの普及のための図書館といった感じですね。

その後二〇〇四年に贈呈しましたバーンサンタの井戸を見てきました。

た。八〇メートルの高さの給水塔付きの井戸でした。エィン孤児のための施設でした。大変感謝されています。

21日は、デンソータイランド、藤田螺子工業株式会社の職場訪問を実施しました。外国人を使用することは、それなりの苦勞があることが判りました。この職場例会につきましては、酒井職業奉仕委員長に指揮していただきました。

夜は、海外での例会を開催しました。会員の出席総数は23名でした。タイからの青少年交換学生ワンリーさんも参加していただき、賑やかに開催できました。

22日にはゴルフクラブの例会及び観光を行いました。ゴルフは、誠にゴルフ日和で、天候も良く、楽しみました。観光にお出かけいただいた方も、お楽しみいただいたと思います。

夜は、日本語だけでなされているタイのバンコク・スリ・オンロータリークラブを訪問しました。会長が日本人の名古屋の出身の女性の方でした。会員は26名ですが、日本からの参加者の方が多い例会でした。バナーをいただいていたので、ご披露致します。そして、夜の飛行機で帰国しました。大変タイトな日程でしたが、大過なく終わりました。

これも皆様のお陰であり、大変感謝しております。ありがとうございます。

名古屋大須ロータリークラブ年次総会
2006～2007年度 役員理事会構成

会長	(役員)	神田 憲
副会長	(役員)	加藤 正樹
幹事	(役員)	内藤 明
会計	(役員)	松本 哲朗
S.A.A	(役員)	木村 光徳
会長エレクト	(役員)	堀江 英弥
直前会長		草野 勝彦
副幹事	(理事)	前田 隆久
社会奉仕委員長	(理事)	太田 裕
新世代委員長	(理事)	小林 昭喜
国際奉仕委員長	(理事)	伊藤 与則
職業奉仕委員長	(理事)	近藤宏一郎
クラブ奉仕委員長	(理事)	鬼頭 茂成
親睦活動委員長	(理事)	田崎 雅三
会員増強委員長	(理事)	吉田 隆彦

年次総会

第1号議案 「財団法人ロータリー米山記念奨学委員会が、多地区合同奉仕活動であることが承認されました。

第2号議案 2007～2008年度

会長 堀江 英弥
幹事 前田 隆久

承認されました。
第3号議案 2006～2007年度 役員・理事承認されました。

タイ職場例会パート2

多目的教室の訪問レポート
クラブ奉仕委員会 堀田 泰造
我が名古屋大須クラブがボランティア団体AWC(アジアの女性と子どもネットワーク)を通じて、2003年にタイ国チエンマイ県オムコイ郡にあ

るバンパーンスクールへ寄贈した多目的教室は、今年の春に着工して夏に完成しました。我々が訪問するのに合わせて落成式が執り行われました。この度のタイ例会等の催しを兼ねてクラブ奉仕委員会は、一足早く11月18日に視察見学のためチエンマイへ向い旅立ちました。翌日の早朝にAWC代表のマリ・ワリスティヤさんと山本博子事務局長と共にホテルを出発し、タイ人でソーシャルワーカーのジャンロン・メキンタラックら(2ヶ月前に逝去)の奥様の鈴木けい子様と現地との調整に協力いただいた、ソーシャルワーカーのソーン氏により現地へ案内をして頂きました。バンパーンスクールは、チエンマイ市から南に200キロ離れ、幼稚園か

ら小学6年生までの245名が学ぶ学校で、生徒の殆どが山岳民族のカレン族です。山岳民族は先住民族として昔からこの地に住んでいました。独自の言語、風習を守り、焼き畑農業を主とした自給自足の生活をしていました。が、政府の方針により焼き畑農業が禁止され、経済的な貧困に陥ってしまいました。焼き畑農業は何年も同じところで続けていると地力が落ちて作物ができなくなります。唯一の換金作物であるアハンの栽培も禁止されたために現金収入を得ることもできなくなりました。国籍の持てない人が多く、独自の言語を使用し、タイ語の読み書きが出来ないので職業選択の幅も狭められています。このような状態の中で、子どもたちが教育を受けることは何よりも希望につながります。バンパーンスクールでは教室が足りず、一部の子どもたちは屋外で授業を受けていました。この多目的教室は授業やスポーツなどの様々な活動に使用するのみならず、その一部を村の人たちのミーティングの場として、また遠方から通う子どもたちのための寮としても使用します。現在家が遠くて学校に寄宿する必要のある子どもは17名います。子どもたちは月曜の朝10キロ近くを歩いて学校に来て、金曜日の夕方また同じ道を歩いて自宅に戻ります。子どもたちは全員で助け合いながら、食事の仕度も掃除もすべてのことを自分たちで行なっています。

我々は3時間半以上の道程で、途中終わりの30分程は全く整備されていない凹凸の山道での、のろのろ運転は日本では考えられない大変なドライブでした。9人乗りのワゴン車で案内して頂きましたが、この車はチエンマイ県教育局から手配して頂きました。

現地に到着したら立派な飾り付けがなされ教室前面には大きな看板に我がクラブ名が明記されていました。またテーブルには先生と児童達が料理した食事が用意されており関係者の皆さんと共に昼食を美味しく頂きました。



我々を歓迎する落成式が始まり、先生、生徒両親の集まる中で、チエンマイ教育局第5ゾーンの副教育長とウィナイ校長から我々を歓迎しての大変光栄なるお礼のご挨拶を頂きました。川畑クラブ奉仕委員長からは、我々の予想以上に多目的教室がお役に立ち皆さんに喜んで頂けて非常に感激を受けた旨の挨拶をしました。その後、生徒達による舞踊と歌を振る舞って頂きましたが、小学生が中心での舞踊は民族衣装が艶やかで、幼稚園女児の歌は非常に上手で可愛らしく感銘しました。帰り

際にバレーボールとお菓子の土産を贈呈し、生徒達は大変喜んでくれました。当日は19日出発の皆さんとの夜の食事に合流する予定があるため生徒達との別れを惜しみ校門出口の両側に並んだ日本とタイ国の国旗を手に持つ生徒達に見送られチエンマイ市内への帰路に帰りました。

我が名古屋大須クラブが寄贈した多目的教室が予想外にもこのように喜んで頂けるとは想像もしていなかったので非常な感動を受けました。チエンマイ市街地から片道3時間半以上かかる道程で全員が参加するには無理があり、この度は我々二人が代表として訪問しましたが、日本に居ては分からないこの貴重な体験はロータリアンとして奉仕活動の有意義を大きく感じる事ができました。タイ国ではこれは氷山の一角で他の多くの学校が支援を待ち望んでいることとです。バンコク市街地と山岳民族との暮らしのこの大きなギャップを解決するには、根本的な政策が必要であると感じた次第です。

12月15日(木)例会の「案内」
「切手に遊ぶ」
会員 大原 敏正さん

プリンテン委員会
川口 小折・黒柳 一男・大原 敏正